

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501255		
法人名	有限会社ワームサポート		
事業所名	グループホーム ひだまりの家		
所在地	室蘭市御崎町2丁目10番19号		
自己評価作成日	平成24年3月20日	評価結果市町村受理日	平成24年4月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173501255&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173501255&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひだまりの家はその名の示す通り、朝はイタンキ方面より、日中は母恋富士方面より、夕方は室蘭港方面より、一日中陽のあたる温かな、そして、白鳥大橋、工場群、港が一望できる風光明媚なグループホームである。開設より7年が経過し、アットホームな雰囲気の中で、基本理念にある「穏やかで安らぎの暮らし」を実践している。代表者の家庭は、この地の移り住んで115年という御崎町の生え抜きで、よって町内会を始め地域住民、社会とは結びつきが強い。ホームでの行事や避難訓練には地域住民、町会役員から積極的な支援を受けている。また町会行事のイベントにも参加招待を受けている。代表は元学習塾の民間教育出身者であることから、市内外の看護学校、介護専門学校、高校キャリア・アップ、介護ヘルパー養成校からの実習機関先として、多数の生徒を受け入れ、認知症介護教育の一翼を担っている。職員スタッフには外部の研修、講習の派遣だけでなく、市内グループホーム事業所の協力を得て、月一人程度、他施設実習体験を実践し、当ひだまりの家の介護ケアの更なる向上の発展に向けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームひだまりの家」は、JR御崎駅から徒歩で数分の高台に位置し、居間や居室の窓からは、自然豊かな景色を四季折々楽しむことができるなど、環境に恵まれたグループホームである。代表者は、日頃から職員の意見に耳を傾け、利用者が穏やかで安らぎのある生活ができるように取り組んでいる。管理者を中心に、全職員は理念を深く理解し、常に理念に沿った統一したケアが行えるように意見交換を行い、利用者の尊厳を大切に穏やかで笑いのある生活を支援している。地域において代表者の人望も厚く、開設当初より地域との交流も活発に行われ、事業所の行事にも多くの地域住民が参加したり、お裾分けを頂く機会も多い。避難訓練時には、近隣住民宅に避難する訓練を実施するなど、日常的な交流を活かして災害時の連携も深められている。管理者は、市役所の依頼で認知症サポーター講座の講師や地域住民の介護相談など、市役所との連携も築かれている。職員の外部研修参加や内部研修における事例検討など、職員の資質向上に常に取り組んでいるグループホームであるが、代表者は更なる人材育成を目指し、今後は組織の基本作りに重点を置いて運営に取り組んで行く意向である。利用者は、職員の温かな声かけとケアにより、穏やかな笑顔でゆったりとした日々を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(2階海アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階海)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念の中の「地域とともに、穏やで安らぎのある暮らしの場を」という項目があって、地域との繋がりを大切にしている。理念はホーム内の見やすい場所に掲示し、職員の名刺の裏側にも載せ共有の実践に努めている。	「地域とともに、穏やで安らぎのある暮らしの場を」という地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成して、事業所内に掲示しパンフレットに記載している。新人研修やミニミーティング、会議などで振り返る事で全職員が理念を共有し、日々のケアで実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方との日常的なあいさつはもちろん、お互いの行事やイベントの催しには参加し、交流を深めている。ホームの各種行事の際には地域の方のお手伝い、協力をお願いしている。	利用者は、地域のお祭りに参加したり、文化展に作品を出展している。事業所で開催した夏祭りの手伝いやリース作りに地域住民が参加するなど、活発に交流が行われている。地域の子供達が来訪して、よさこいを披露してくれることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町会の婦人部主催の「認知症予防対策」の講演には管理者が講師として参加し、グループホームとして可能な限り協力体制を敷いている。好評を博している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議には地域代表・家族代表・市役所職員・地域包括支援センター職員とひだまりの家役員・管理者・スタッフ代表が、自己評価・外部評価の結果について意見交換を図っている。	家族の参加向上に向けて計画的に働きかけながら、2か月毎に開催し、評価結果報告や災害対策、専門分野の方の話などを議題に取り入れ、充実した会議になるように工夫している。会議を基に、避難訓練時に地域住民宅に避難するなど、日々のケアに活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市内全グループホームが加盟する「室蘭市GH連絡会」を通じて、入退去状況、議事録の送付、各種研修会の報告など、行政との連携に努めている。	運営者や管理者は、日頃から市役所を訪問して連携を深め、課題があればすぐ相談できる関係を築いている。管理者は、市役所からの依頼で、高校生を対象にした認知症サポーター講座の講師や地域住民の介護相談などを積極的に行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止対策への取り組みは、社長以下ホーム全体で臨んでいる。身体拘束となりうる基準を明確にし、スタッフ職員がそれを理解できるよう、事あるごとに伝達・説明・啓蒙に努め、各種研修会にも派遣している。	法人としてマニュアルを作成し、日頃から身体拘束のないケアに取り組んでいる。運営者や管理者は、社会情報などの事例に基づいて、その都度対応などについて再確認したり、適切な対応について職員間で意見交換を行っている。今後は、言葉の拘束に関する勉強会を行い、更に職員の意識向上をめざして行く意向である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉による虐待については、努めて力を入れ防止に取り組んでいる。本人は何気ないつもりの一言葉によっては傷つけるものになり得、スタッフ同士でも注意し合うように心掛けている。各種研修会にも参加、派遣している。		

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 海)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に権利擁護に関する制度を利用したケースがあり、学ぶ機会があった。さらに研鑽を積み、今後も理解を深め必要に応じ活用できるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族が不安や疑問がないように十分確認し、重要項目などの説明を行い、理解し納得していただくようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にはご家族も参加いただき、意見交換を行っている。重要事項説明書に苦情相談窓口を記載し、玄関に苦情意見箱を設置している。ご家族が面会に来られた時は意見や相談など気軽に話していただけるよう努めている。	運営者や管理者、各職員は日頃から家族とコミュニケーションを取り、来訪時などに具体的に話しかけて、意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに配慮している。家族の意見や要望は連絡ノートに記録すると共に、ミニミーティングなどで連絡して情報を共有し、ケアや運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議など日常のコミュニケーションにより、職員スタッフの意見を聞き入れる機会を作っている。代表者は就業年数に応じて職員スタッフとの意見交換に努めている。	運営者は、各職員と日頃からコミュニケーションを取り、さりげなく、定期的に話を聞く機会を設けるように工夫している。職員の希望に応じてシフトを変更したり、外部研修や実習など、本人の意向に沿って学べるように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員スタッフの出勤、欠勤、早退、遅刻等の勤務状況や日常の仕事への取り組み、研修参加など勤務考査を図っており出来る限り、やりがいのある職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員スタッフを把握し、スキルアップには常日頃から取り組んでいる。また外部の各種の研修、他施設実習、運営推進会議には、交代で参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西胆振GH広域連絡会や室蘭GH連絡会主催の研修会や他施設への実習を通して、意見交換や交流する機会を設け、自己啓発やサービス向上に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 海)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り見学していただきホームの雰囲気や環境、取り組みを実感していただいている。ご本人の不安や希望など聞き、その思いを受け止めるよう努めます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自由にホームを見学していただき、ホームの雰囲気や職員スタッフの対応、入居者の表情を見ていただき、ご家族の要望や困っていることを十分聞き、納得した上で入居していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の思いや希望をお聞きし、ホームの役割である「できること、できないこと」を説明し、他の施設も見学されることを勧めた上、納得して入居できるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯ものをたたむ、テーブル拭きをする、朝カーテンを開けるなど、一人ひとりの役割をもって、一緒に楽しみながら、個人個人の出来ることを見極めていくよう努めている。皆が同じ視点、同じレベルでケアに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの電話、訪問・面会の際は、スタッフと何でも話が出来るとの雰囲気づくりに努めている。また安心していただけるよう、健康面やホームでの様子を出るだけ詳しく説明・報告している。帰りはスタッフが玄関で最後までお見送りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前、出来るだけこれまでの既歴、生活歴の情報収集を行い、職員・スタッフ間に共有するよう努めている。面会に来られたご家族、友人知人の方からもお聞きして、入居前の生活環境に結びつく雰囲気づくりに努めている。	近所に住んでいた方や宗教関係の知人が来訪する利用者もあり、お茶を出したり、時には食事を一緒に楽しんでもらう事もある。利用者の希望に応じて、職員と一緒に自宅を見に行き近隣の知人と会話を交わしたり、喫茶店などに出かけるなどの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性や性格を把握し、スタッフ職員が常に見守りをして、孤立しないように注意を払っている。互いにお世話している場合、さりげないサポートして穏やかな雰囲気作りに努めている。		

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階海)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一部ではあるが、すでに退去したご家族が来訪してくれることがある。その時写真を見たり、思い出を語ったり、入居者の方との交流に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の表情、言葉、行動から、入居者の思いや希望・要望を察し、汲み取るよう努めている。相手のペースに合わせる「待つてあげる」精神をスタッフ間の統一目標に挙げている。ミーティングでの伝達・報告。	利用開始時に、家族や関係者から情報を聴き取り、生活歴や趣味、食事の好みなどを記録して日々のケアや介護計画に活かしている。新たに得られた情報は、連絡ノートに記録すると共に、職員間で対応を検討し、統一したケアができるように工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(20)同様、これまでの生活歴、生活環境の情報収集、及び職員スタッフ間での共有に努めている。知り得たことは、連絡ノート・日々ミーティング・全体朝礼の際、伝達・報告をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引き継ぎ・連絡ノート・日々ユニットミーティング・全体朝礼の場で、個人個人の体調や気分や様子を伝達・報告し、スタッフ間で現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の言動や表情、ご家族からの意見や要望を聞くとともに、協力医療機関の指示や助言をもとに現状の把握に努め、スタッフと情報を共有しながら作成している。	計画作成担当者は、日頃から職員と意見交換し、毎月のモニタリングや家族の意向を基に担当者会議を行い、3か月毎に計画の見直しを行っている。介護計画は、家族に説明すると共に、利用者に応じて、わかり易く説明を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの食事・水分摂取量・排泄・バイタル・体温は介護日誌に記載記録し、スタッフは日々チェックする。体調の変化に気づいた際は、日番でないスタッフにも伝わるよう、連絡ノートを活用し、共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科衛生士による口腔ケア指導や介護保険外の福祉良具貸与など、個々のニーズに合わせ、ホームでの生活がより良いものになるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署立ち会いでの消火非難訓練には地域住民、町内会役員が協力参加していただいている。行事では交互に参加して地域住民と交流を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけの医療機関にはスタッフが同行して受診している。体調不良時には協力医が往診してくれている。病状により総合病院への紹介など適切な医療を受けられるよう支援している。	殆どの利用者がかかりつけ医の受診を継続している。事業所で通院支援を行い、受診結果は、連絡ノートと通院報告書に個別に記録して職員間で内容を共有している。協力医療機関の医師は時間外にも往診を行うなど、適切な医療がすぐ受けられるように支援している。	

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階海)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が全入居者の健康チェックを行っている。体調の変化や受診時の状況など看護師に報告し、相談しながら個々の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合、病院に出向き、ご家族や医師など病院関係者との連携を密にし、治療進行や退院の目途について話を聞く。できるだけ早期に退院できるよう話し合いに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に係わる指針」を作成し、同意書をご家族との間で取り交わしている。また、その場合の方法を「ターミナルケアに関するマニュアル」を添付して、ご家族と間で確認を行っている。	今年度、医療連携体制加算を取得し、「重度化した場合における対応に係わる指針」を作成して家族に説明し、同意を得ている。利用者の状態に応じて、医師、家族、事業所間で話し合いを行い方針を共有していく意向である。医療行為が必要となった場合は、入院の方向になると考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	室蘭市GH連絡会主催の普通救命講習を定期的(年2回)に受講し、職員スタッフの大半が終了している。緊急マニュアルをユニットごとに置き、応急手当や心肺蘇生法など学び研鑽している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自動火災探知機・スプリンクラー装置・自動通報装置など保守管理業者が定期的に点検、職員スタッフも異常がないか点検確認している。近隣住民の参加の元、夜間時想定火災避難訓練を行い災害対策に取り組んでいる。	消防署の指導の下、年2回昼夜を想定した火災避難訓練を実施している。地域との協力体制も築かれており、春の訓練に町内会役員や近隣住民も参加している。職員は、定期的に救急救命医訓練を受講している。今後は、災害備蓄品の整備に取り組む意向である。	地震などの災害に対するシミュレーションを行うなど、災害種別に応じた対応の再確認と災害備蓄品の整備に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「言葉掛け」命令口調、子ども扱いには常日頃から十二分に注意を払っている。特に排泄の失敗などはその人の自尊心、尊厳に係わることなので肝に銘じ当たっている。	利用者への接遇は、「急がせない、驚かせない、恥ずかしい思いをさせない」の基本姿勢を持ち、優しく穏やかな対応を心掛けている。個人記録は利用者の目前で書かない事を徹底し、保管場所も他者の目に触れない個所で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症のため、思いや意思を発せない方がおられるが、こちらの方より、仕草や表情で、その思い、意思をくみ取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の「時間帯」ペースというものを理解し、一人ひとりそのペースに出来るだけ合せたケアに努めている。ミーティングで確認し、出番でないスタッフにも伝達している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性には髭そりなど、女性には着るものに配慮している。特に受診など外出の際は、本人の希望も聞くように努めている。できるだけほめるようにしている。		

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 海)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、適切なコミュニケーションを取りながら、さりがなく食事の準備や配膳、後片付け、テーブル拭きなど促している。その際、かならず「ありがとうございます」を忘れない。	ホーム長と調理担当職員が献立を作成している。誕生日は本人の希望を聞き、事業所内で特別メニューにして祝ったり、外食なども取り入れている。食事は彩り良く、季節に応じた行事食も提供している。食事一連の作業は利用者の意思や気持ちを大切にしながら、一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は一日100CCを目標に、日々の体調を見ながら無理のないよう実践している。食事・水分摂取量を記録し、個人個人の嚥下状態や咀嚼状態にあわせた、食事づくりに努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	「口腔ケア」に関しては日頃よりホーム全体で取り組んでいる。定期的に歯科衛生士が来訪し指導にあたっている。押しつけでなく、スタッフも一緒になって「にこにこ体操」や歯磨きをやっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄行為はその方の最も尊厳に係わることでありとスタッフは認識している。またリハパン・オムツ使用は本当の最終段階であると統一した見解となっている。その一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。	トイレへの誘導は、他者に気づかれない声かけを工夫するなど、本人の自尊心に配慮している。リハビリパンツやパットなどを安易に使用しない支援のあり方を職員間で話し合っている。失禁対応では即座にパットを使用するのではなく、トイレ誘導の回数を多くしたり、生理用ナプキンから用いるなどの配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々のミーティングの際、排泄状態を確認し、水分補給や乳製品摂取なども合わせて確認している。体操や体を動かすことで快便になるよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日置き、二日置き、その人、その人の好み、その日の体調、気分、タイミングを見極めながら入浴を促している。入浴中はできるだけコミュニケーションをとりながら、気分転換・気分爽快をめざしている。	基本的に、日曜日以外の午後の時間帯に入浴を設定し、連日入浴している利用者もいる。入浴時に一緒に歌を歌うなど、リラックスしてもらえる雰囲気作りをしている。絶対入りたくないなどの、完全拒否の意思を示す利用者はいない状況である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には本人の自由意志に基づいてやっている。寝入りが悪い場合、昼間体を動かすよう注意するか、昼寝が長過ぎた場合などは、それとなく促がす。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の「服薬表」を作成し、スタッフルームに掲示して、その用途・用法・量・効用を理解するよう努めている。薬ケースにも薬剤名・効用を記載して知識の習得に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(20)(24)同様、これまでの生活歴を知り、碁や将棋、生け花、カラオケなど、各人の楽しみを把握し、そういう機会を作り出し、発揮してもらうよう努めている。写真も掲示してその特技を褒めるようにしている。		

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 海)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設が坂の中腹のあるためなかなか気軽に散歩という訳にはいかないが、裏の敷地に短い遊歩道を設置したので、天気のいい日に利用するよにしている。また天気がよい日の午後など状況を見計らってドライブに行き、ソフトクリームなど食べて来る。	天候の良い日は事業所の遊歩道に出て、散歩をしたり外気浴をしている。ホテルで敬老の集いを催し、家族も一緒に楽しむ機会がある。御崎神社の祭典に参加したり、登別方面などへも出かけている。特にドライブを兼ねた個別外出に力を注ぎ、書店やデパート、喫茶店、お寿司を食べに行くなど、本人の身体機能に配慮した支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方はお金は所持していないが、持っていると安心だという方には家族の確認の上、ごく小額の現金を所持している。実際には使うことはない。紛失しないようスタッフが注意を払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話できるよう手助けするが、実際あまり実例はない。ご家族や親戚や知人からの電話は取次いで会話できるようサポートしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下、階段などには、行事の写真やパネル、季節感を感じさせる飾り付け、装飾など、工夫を凝らしている。トイレや自分の居間が分かるように、独特の目印(その人にあった)をつけ混乱を防いだ工夫に努めている。	リビングは、眺望も良く明るく温かみのある空間である。利用者の作品等の掲示は職員のアイデアが活かされており、目を引く装飾となっている。見当識に配慮するための場所表示も雰囲気損なわない心配りが見られる。湿度対策は、加湿器や濡れバスタオル、霧吹きで常時対応している。遠赤外線暖房を使用し、浴室の脱衣室も保温されている。	来客も通るギャラリー風設えのある階段が、現在喫煙場所となっているため、今後喫煙する場所について検討する意向なので、その取り組みに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設の現状から一人になる場所、空間が少ないが、廊下の端側にソファを設けたりして寛いでもらっている。リビングのテーブルでの座り位置にはかなり神経を払い、スムーズに交流できるよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談して、これまでの暮らしに使っていた馴染みのものを持ってきていただき、側においてこれまで違和感がないよう努めている。場所替えなど希望があればそれに沿っている。	居室には備え付けベットがあるが、利用者の身体機能に応じて他のベッドの導入も支援している。冷蔵庫、仏壇、マッサージチェア、運動器具など様々な物が持ち込まれている。縫いぐるみや植物などのお気に入りの品々なども置かれ、個々の利用者にあった自分らしい居室作りをサポートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全には注意を工夫を込めている。手摺り、エレベーター、車イス使用トイレ、階段など歩行が困難になっても対応できるよう整備されている。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501255		
法人名	有限会社ワームサポート		
事業所名	グループホーム ひだまりの家		
所在地	室蘭市御崎町2丁目10番19号		
自己評価作成日	平成24年3月20日	評価結果市町村受理日	平成24年4月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「2階 海ユニット」に同じ
---------------

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173501255&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173501255&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年3月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(3階空アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念の中に「地域とともに、穏やかで安らぎのある暮らしの場を」という項目があり地域との繋がりを大切にしている。理念はホーム内の見やすい場所に掲示し職員の名刺裏に載せ理念共有の実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方との日常的な挨拶はもちろん、お互いの行事や催しへの参加など地域との交流は深く、ホームのイベントには地域の方から協力を申し出てくれ、盛り上げてくれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町会の婦人部の方との認知症についての談話やサポーター養成の講演など地域に向けて可能な限り認知症の人の理解や関わり方など地域に向けて発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議は隔月で行なっており、町会代表、家族代表市職員や地域包括支援センターの職員との情報交換自己評価、外部評価の結果、ホームでの取り組みなどを報告し、ご家族や地域の方の意見や要望を聞きサービス向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	室蘭市GH連絡会を經由し、入退去情報の報告を行なうと共に運営推進会議の議事録を提出し日常の取り組みやケアサービスについて市に報告している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ユニットに身体拘束マニュアルを設置し、身体拘束となり得る行為について常に話し合い確認しあっている。玄関は自動ドアになっていて自由に出入りできるが、夜間は防犯のため施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何気ない言葉や行動が虐待に繋がることを意識しスタッフ間で常に話し合い虐待防止に努めている。		

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に制度を利用したケースがあり学ぶ機会があった。今後も理解を深め必要に応じ活用できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点や不安がないかなど十分確認し重要項目などの説明を行ない、理解し納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の方にも出席して頂き意見交換している。重要事項説明書に苦情相談窓口を記載し、玄関に苦情意見箱を設置している。ご家族が面会に来られた時は意見や相談など気軽に話して頂けるように努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議など日常のコミュニケーションにより職員スタッフの意見を聞き入れる機会を作っている。代表者は就業年数に応じてスタッフと意見交換を図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員スタッフの出勤、欠勤、早退、遅刻等の精勤状況や日常の仕事への取り組み、研修参加など勤務考査を図っており出来る限りやりがいのある職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員スタッフを把握し、スキルアップには常日頃から取り組んでいる。また外部の各種の研修、実習、運営推進会議には交代で参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西胆振GH広域連絡会や室蘭GH連絡会の研修会や他施設への実習を通じ意見交換や交流する機会があり、自己啓発、サービス向上に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り見学して頂きホームの雰囲気や取り組みを実感して頂き、ご本人の不安や希望などを聴き、その思いを受け止めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学を自由にして頂き、ホームの雰囲気や職員の対応、入居者の表情などを見ていただき、ご家族の要望や困っていることを十分聞き納得した上で入居して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の思いや希望を傾聴し、ホーム役割や「できること、できないこと」を説明し、他の施設も見学されることを勧め納得して入居できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを一緒に行ない、出来たことを一緒に喜び日々の喜怒哀楽を共にして解り合える関係を築いている。「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えることで自信や役割ができ意欲向上につながっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた時は、ご本人との思いで話をしながら何がご本人にとってベストなのかを一緒に考えて実践に繋げている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由で、来られた方がゆっくり寛いで頂けるように努めている。キリスト教を信仰している入居者には定期的に神父様がお祈りに来るなどご本人の生活習慣や馴染みの人との関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の相性を把握し、一方的に介入するのではなく、スタッフが常に見守り、その時の状況や感情を見極め、その人の思いを尊重し孤立ないように努めている。		

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階 空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去したご家族が訪問してくれて思い出話をする機会がある。行事に参加してくれるように誘ったり、気軽に遊びにきてくれるように声をかけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情、行動からその時の思いや不安を察するようにしている。気づきなどは毎日のミーティングで話し合い、ご本人の希望はできる限り実現できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の関係機関のサービス利用経過やご家族から生活歴や身体状況などの情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全体朝礼やユニットミーティングで個々のその日の気分や体調を確認したり気づいたことは連絡ノートに記入しスタッフ間で情報交換している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の言動や表情、ご家族からの意見や要望を聞くとともに協力医療機関の指示や助言をもとに現状把握に努めスタッフと情報を共有しながら作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に毎日の食事量、水分摂取量、排泄状況などを記入。体調変化や生活の中での気づきは連絡ノートを活用しスタッフ間の情報交換、共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科衛生士による口腔ケア指導や介護保険外の福祉用具貸与など、個々のニーズに合わせ、ホームでの生活がより良いものになるよう取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事などに町会の方にも参加して頂き交流を深めている。また、消防署立ち合いでの避難訓練は町会役員やご近所の住人の方の協力を得ながら地域一体となり安全に生活ができるよう取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけの医療機関にはスタッフが同行し受診。体調不良時は協力医が往診してくれている。病状により総合病院へ紹介してもらうなど適切な医療を受けられるように支援している。		

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1/W看護師が全入居者の健康チェックを行なっている。体調の変化や受診時の状況などを看護師に報告して相談しながら個々の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合、病院に出向き、ご家族や病院関係者との連絡を密に行ない治療進行や退院の目途についてなどを聞き、できるだけ早期に退院できるように話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、同意書をご家族との間で取り交わしている。またその場合の方法を「ターミナルケアに関するマニュアルを添付してご家族との間で確認を行なっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	室蘭市GH連絡会主催の救急救命講習を定期的に受講し全職員が講習を修了している。また救急マニュアルをユニットごとに置き応急手当や心肺蘇生法などを学び万が一のために備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自動火災報知機、スプリクラーを設置。毎日、消防設備に異常がないか点検している。また、定期的に近隣の住民の協力のもと夜間を想定した避難訓練を行なうなど地域一体となって災害対策に取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どんな時も子ども扱いや命令的な言葉は使わないように徹底している。「急がせない。驚かせない。恥ずかしいめに合わせない」を合言葉に自尊心を傷つけない対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の症状として思いをうまく表出できない事を理解し表情や仕草から思いを読みとったり、コミュニケーションを十分とる事、答えを急がせるのではなく待つ姿勢を忘れずに自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースに合わせ業務優先にならぬように毎日のミーティングで確認しあっている。気分や体調に合わせて希望に沿って個別に外出し外食したりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節やその日の気温に適した服と一緒に選んだり外出やイベントには好みの色や形に配慮した装いをしている。毎月、出張理髪店による散髪や希望によっては行きつけの理美容院に同行するなど身だしなみやおしゃれが楽しめるように配慮している。		

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階 空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとり一人のできる力を活かしテーブル拭きや片付け野菜の下ごしらえなど一緒に楽しく行なっている。出前や外食、誕生日や季節毎の催しに合わせた献立など食事を楽しみにして頂けるように努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を記録し栄養バランスに気をつけている。水分は一日食事以外に1000cc摂れるように目指し個々の嚥下、咀嚼力に合わせて食事形態も工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じ協力歯科医の歯科衛生士が口腔ケア指導を行なってくれている。毎日、口腔体操を実施し食後は歯磨きや義歯洗浄を行ない、自分でできる部分は自分で行なってもらうが不十分な部分はスタッフが介助して口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄できるように定期的に声を掛け誘導を行なっている。リハパンやパット使用に関して何度もスタッフ間で話し合い極力使用しないようにしている。たとえリハパンになってもトイレでも排泄できるように心がけ失敗や苦痛が最小限になるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、食物繊維や乳製品を多く摂れるように工夫する。無理のないように適度な運動や散歩を促す。毎日排便状況を記録し場合によっては看護師や協力医に相談するなど便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴時間は決まっているが、毎日入浴したい入居者には希望に応じ入浴していただいている。入浴は一対一になれる良い機会とし、ゆったりとした気持ちで対応してリラックスできるように心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やリズムを把握しお昼寝をして頂いたり、自由にソファで寛いだり安心して休息できるように支援している。夜間眠れない方には話をゆっくり聞いたり温かい飲み物を勧めたり安心して眠れるように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に一週間分の薬をケースに入れ、ふたに薬剤名、効用を記載、スタッフルームに全員の服薬内容表を貼り、全スタッフが用法や用量、効用が解るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来ること、好きな事、嫌なこと、苦手なことなどの把握に努め無理のないように出来る力に合わせて過ごせるように支援している。出来たことは一緒に喜び感謝の気持ちを表すことで自信や生活意欲向上に繋げている。		

グループホーム ひだまりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階 空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや外食など希望に添えるように努めている。お天気にあわせ外出して気分転換を図ったり、ご家族との外出も自由にして頂いている。ホーム敷地内の遊歩道は車椅子でも自由に移動でき、白鳥大橋や工場群が全望でき、夏の花火大会には地域の方と一緒に観覧したり交流の場となっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自ら金銭を扱うことはないが希望される場合はご家族と相談の上紛失してしまうことも考えられることを説明し、ごく少額を所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話操作できる入居者は殆どいないが希望に応じ電話をかけてあげたり手紙や年賀状のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光に対しロールカーテンを使用。24時間換気設備、自動暖房など快適に暮らせるように設備している。また、冬には湿度にも十分配慮し加湿器などを使用して風邪予防対策を行なっている。玄関やリビング、廊下には写真パネルや季節に応じた装飾など季節感を味わっていただけるように工夫している。トイレや自分の居室が解るように目印をつけ混乱を防ぐなど居心地の良い環境作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファを置き休憩スペースが設けられており、気の合う入居者同士が会話したり、居眠りをしたり思い思いに過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に居室にはご本人が使い慣れた馴染みのある物を持ってきて頂けるようお願いして居心地の良い場所となるようにしている。スタッフがプレゼントしたぬいぐるみを就寝時に傍に置き眠るなど安心していただけるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺、エレベーター、車いす対応トイレなど安全に暮らせるように環境を整備して生活の中で失敗がないように工夫している。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム ひだまりの家

作成日：平成 24年 4月 5日

市町村受理日：平成 24年 4月 6日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	法令上明確に禁止されている身体拘束となる行為以外にも言葉による拘束、過剰な「見守り」が、入居者の行動制限となるかもしれない事を再度確認する。	言葉や態度による拘束の問題意識を認識し一人ひとりに合ったケアを実践する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりに対する声掛けの方法が適切か、日常生活の中での関わりや見守り体制が活動制限や圧迫感に繋がっていないかなど話し合う。</li> <li>気づいた点やエピソードは記録し、スタッフ間の情報共有に努める。</li> </ul>	1年
2	35	昼夜を想定した避難訓練は行なっているが地震などの災害に対する訓練は行なっていない。また、非常時の備蓄品の準備ができていない。	あらゆる災害を想定し、緊急事態の中で、いち早く応急活動を行なう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震や他の災害発生時に適応する行動を再確認する。</li> <li>ホーム内の危険な場所や安全な場所のチェック。</li> <li>非常備蓄品を準備し、持ち出しやすい場所に保管し定期的にチェックする。</li> </ul>	1年
3	52	喫煙場所が2階、3階の階段通路にあり、煙草臭が充満していて来客された方に不快感を与えている。	受動喫煙を防止し健康被害のない環境整備を進める。 (ホーム内全面禁煙、完全分煙などを検討)	<ul style="list-style-type: none"> <li>喫煙場所の変更を検討し、分煙、臭い対策を講じる。</li> <li>喫煙するスタッフは介護施設であることを認識し喫煙マナーを守る。</li> <li>近い将来、ホーム内全面禁煙とする。</li> </ul>	6か月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。